

B-77 「芸」としての裁縫伝授から
「技術」としての裁縫教育への展開過程
(第2報)

和洋女子大 永野 順子

1. 第1報(本年2月の関東支部会で発表)のあとをうけて、明治期において、裁縫教育が、中世・近世に根をもつ「芸道」的な性格を脱皮しながら、近代学校の技術教育の一環に組込まれていくプロセスを考察する。

2. この目的を達成するため以下の諸点をふまえて資料の整理を進めた。

- 1) 明治初年以降の近代社会において、わが国民の衣生活上におこった構造的変革の過程。
- 2) 近代学校が発生し発展したプロセス。中等学校を中心として、その教育目標やカリキュラム、教材内容、さらに、これらのうちに占めた裁縫教育の位置や性格について検討する。
- 3) 近代学校の裁縫教育がとりあげた教材内容の分析。裁ちかた、縫いかたなど、技能面を分析の対象とするが、1)および2)で明らかにされた点をふまえつつ、その意義を究明する。
- 4) 近代学校の裁縫教育が用いた学習指導法の分析。子どもの興味や能力の発展段階に即応した学習指導法の普及にともなって、裁縫の指導方法も体質改善をはからざるをえなくなった実情を検討する。

3. 以上の諸点をとおし、裁縫教育が、目標では封建時代からの伝統を継承しながら、内容や方法は、近代的な技術教育の性格にむかって大きく傾斜する過程を究明する。